

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和元年度第 1 回 A 部会		
事務局 (担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和元年 7 月 25 日(木) 午後 6 時 00 分から午後 7 時 30 分		
開催場所	川西市役所 地下1階 B01 会議室		
出席者	委員	藤本真里(部会長)、加門文男、乾美由紀、久保圭志、田中真、西村牧子、三善知子	
	その他		
	事務局	総合政策部参画協働課 課長、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p style="margin-left: 40px;">1 開 会</p> <p style="margin-left: 40px;">2 議 事</p> <p style="margin-left: 40px;">(1) 今後の進め方等について</p> <p style="margin-left: 40px;">(2) A 部会のテーマ</p> <p style="margin-left: 80px;">(仮)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」</p> <p style="margin-left: 40px;">3 閉 会</p>		

1 開 会

事務局にて進行。

2 議 事

(1)部会の進め方について

○事務局

改めて推進会議・部会を設けることの目的や趣旨について説明。

① 具体的な提言を行う材料とする。

最終的には、一定のガイドライン・報告書に類するものを作成。どのようにすればより多くの人に活動に関わってもらえるかについて、コミュニティ組織・自治会・NPO・ボランティアなど様々な主体に対して、提言を行う。

② 市の施策に反映する。

市民公益活動に関する効果的な広報や情報発信などを行う際に、ターゲット設定や発信内容などを考える際の材料とする。

(進め方)

- ・ 進行は部会長を中心として、各部会にお任せする。
- ・ 部会名称も決めていただきたい。
- ・ 本日含めて、6回の部会で、自由に話し合ってください。
- ・ 全体会で各部会の内容を共有する。

(2) A 部会のテーマ

(仮)「(地域・市民活動に対して、)やる気があり積極的だが取り組めていない人を巻き込んでいくには」

○藤本部会長

第7回(12月)が意見発表のため、第6回までの4回の部会で大体まとめていく。

また、提言は文字でまとめただけのもではなく、見せ方・伝え方の議論もみなさんとしていきたい。

進め方は、まず、「やる気はあるが取り組めていない人」の現状、その人の気持ち、まわりの環境を整理する。次に、その課題に対する解決策を探っていくという流れである。

本日は現状・課題について議論し、その中で、部会名も決めていければと考える。

(各委員から出た意見)

- ・ イベントの準備など、運営側の慣れた人が全部やってしまうと、新しい人が関わる余地がない。今の組織に風穴を開けることが必要だ。
- ・ 仕事をしていると勤務地のことは知っていても地元のことにはよく知らないし、普通に生活していると何処でどんな活動をしているのかの情報も入ってこない。
- ・ 気軽な気持ちで参加してしまうと、この先運営に関わらないといけないというイメージがある。「ちょっと試しにやってみる」を許してくれる雰囲気が必要。
- ・ 活動のきっかけが重要だ。やる気があってもきっかけや情報がないと始まらない。
- ・ ボランティアなどの活動には、家族の協力や理解が大切である。家族の理解があっても、活動で家を空けてしまう罪悪感はある。
- ・ 地域活動やボランティア活動を照れ臭く感じたり、他人から偽善とみられてしまうと感じる人もいる。
- ・ 新しい人がその地域や団体を知り、運営側として参加するには猶予が必要だ。
- ・ 子育て等の共通の悩みや問題に直面している人同士は、一緒に集まって色々と話してみると盛り上がるし、交流も深まる。(何か得られるお得感のようなものがあれば、さらに良い。)

そうするうちに手伝ってくれる方も出てくるが、その人にも仕事や自身の生活があるので、無理強いはいできない。

- ・ メリットしかない参加者側から運営側に回るとデメリットが大きく見えてくる。
- ・ 役員や運営を固定しない、単発でお金を集め、用品を持ち寄る活動がいいのではないかな。

- ・ 保護者会など活動によっては、良好な関係が築けている以上に大きな活動となる必要はない。
- ・ PTA の中心を幼稚園のママ友が担うなど、一定のグループの基盤があると次の活動の取っ掛かりになる。だが、この基盤が作れなくて、多くの組織が後継者問題に苦労している。
- ・ 地域活動は、自分という存在の居場所づくりがスタートであった。そこから人とのつながりやコミュニティの活動が広がってきた。
- ・ ボランティア活動をしていると、「偉いね」と声をかけられるが、「ありがとう」と違って、部外者感を感じてしまう。

また、組織が特別な遠い存在であると感じさせている、コミュニティ組織の在り方にも問題はある。入りやすい、続けやすい、特別な組織ではないと感じてもらえる必要がある。
- ・ 少しずつの負担を求めないきっかけが大切である。
- ・ いつもどおりの内容で続けることが無難で楽だが、それでは組織は変わらないし、新しい人も参加してこない。
- ・ これまで運営してきた人の積み上げてきたことに対して、急に新しい人が意見しても受け入れ難いという気持ちも理解できる。
- ・ 男性は、役割や目的がはっきりしている方が参加してくれる。スポーツのコーチなど、男性が関わりを持つキーワードが入り口となって地域活動に参加してくれるケースもある。
- ・ 地域には色々な得意分野を持っている方がいるが、下手に表に出すと何かやらされると思い、活かせていないかもしれない。
- ・ 明確な目的や限られた内容をキーワードに関わってもらえる仕掛け、知らず知らずのうちに関りを持ってもらうのがいいのではないか。中には、そういった仕掛けに乗りたいと思っている方もいる。
- ・ 仕掛けの作り方と新しい人を受け止める組織がポイントではないだろうか。

- ・ 新たな担い手を受け止め、育てる組織を作るやり方もある。既存の組織から代替わりする際に、新しい組織に入れ替えることもできる。
また、既存の組織、新しい組織、それぞれが力を発揮できる場があるので、互いに上手く付き合っていくことも大切である。
- ・ イベントの準備の段階で内容ややり方の変更を検討せず、忙しくて振り返りや反省会も出来ないのも、新しい意見が反映されない。
- ・ 運営側も終わってまで手伝ってくれた方を拘束したくないし、誰が良くなかった、ここが悪かったという話をしたくないのではないかな。
- ・ 反省会も会議形式ではなく、飲み会のように雑談ができる場でこそ、フランクな意見が出てくる。

3 閉会

事務局にて進行。

○事務局

次回の部会は、8月19日(月)午後6時から、市役所7階大会議室にて実施予定。